

ICT教育通信

令和3（2021）年6月2日
第1号 小郡市教育委員会

第2回小郡市ICT教育推進委員会を開催しました。

1. タブレット持ち帰りについて

教職員の皆様のご協力により、全ての小・中学校で5月中旬にタブレット端末の持ち帰り試行が実施されました。今後、臨時休業時における学力保障や健康状況等の確認、週末や長期休業中における家庭学習の充実等に活用していきたいと考えています。



Zoom双方向対話（立石中）

＜週末持ち帰りの活用例＞

- ・キーボードでのタイピング
- ・学習プリント（元々あるものをPDF化、ロイノート等で送受信）
- ・タブレットドリル（アプリ）
- ・ネット検索や写真撮影等調べ学習



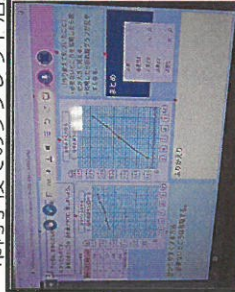
キーボード（新小5年）

＜持ち帰り時の充電について＞

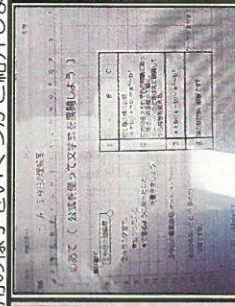
- ・臨時休業時の持ち帰りについては、各校45本（1学級分）の予備充電器で対応。
※コロナでの臨時休業は、学級ごとになるためフル充電で、2時間使用して40時間はもちが、充電については長期休業中も含め検討中。

2. 日常授業での活用について

市内学校でのタブレット活用の様子をいくつかご紹介いたします。



送信されたワークシートにグラフを作成したり、2つのグラフを比較して気づきを書いて話し合ったりする。
（のぞみが丘小4年ロイノート）



各時間ごとにめあてと振り返り（評価）を書いたものをファイリングし、いつでも振り返りができるようにする。
（立石中3年 teams）



教師が作成した画像等を一斉送信後、考えをタッチペン書き込んだり、付箋を貼ったりして説明資料を作る。
（大原中3年 ロイノート）

【その他の活用例】

- 教科書のQRコードを読み取っての活用
- Zoomを用いた集会や儀式的行事の実施
- 理科や生活科の観察等での写真機能の活用
- 外国の方とオンラインでやりとり
- 子どものノート等タブレット上で共有
- ミラーリングによる子どもの作品の紹介
- 各教科等における資料作成、プレゼンテーション



3. アプリ導入の考え方について

タブレット活用の本来の目的は、日常の授業において、効果的な場面で効果的な方法によりタブレット活用をすることで、学力保障・学力向上につなぐことです。



ロイノート活用（のぞみが丘小4年）

よって、校内ICT推進委員会や研究組織を生かした授業づくりの協議が大切です。ドリルアプリを活用する場合は、目的を明確にし、ドリルに偏った活用にならないよう注意が必要です。

4. その他の確認事項について

- ドリルアプリ導入については、令和4年度より一斉に導入（市の予算）の予定であるが、まずは、本年度試行をする予定。学校で予算化できるところは、本年度に導入し、試してみる。
- タブレット端末のパスワードの管理については、子どもたちが慣れるまでは、各学校で発達段階に応じた工夫を。
- ★ 問い合わせ窓口（ヘルプデスク）及びICT支援員については、6月から活用できる予定。
- ★ 担任以外の常勤職員分のタブレット端末は、夏季休業中に配布予定。
- ★ Wi-Fi環境については、職員室から整備予定。
（★は、ICT推進委員会後に確認できたこと）

5. 次回の予定について

次回：令和3年6月28日（月）14時30分～

※ 内容は、授業等でのタブレット活用の実践報告及び情報交換の予定です。



のぞみが丘小4年

教育長より

それぞれの学校で計画的に「持ち帰り試行」「日常授業での活用」を進めていただいていることに心から感謝いたします。

円滑に取組を進めるために、次のような工夫を行っていることを各学校から教えてもらいました。参考になればと思います。

＜ポイント＞

- ・ 具体的な情報が全職員に行き渡るよう「マニュアル」を共有
- ・ ICTスキルの高い先生と苦手意識のある先生をペアリング
- ・ 低学年のキーボード（シフトキー・エンターキー）には色シールを貼付するなどの発達段階に合わせた細かな支援
- ・ 小学校でも全学年で積極的に活用し、とにかく「使い慣れ」させる
- ・ 学校によりで取組進捗の様子を保護者にリアルタイムで発信

